

そして、未来へ。 ひと かながわ人に聞く。

TOP INTERVIEW

企画制作 神奈川新聞社 クロスメディア営業局



横濱コーポレーション株式会社
代表取締役 菅沼 勇基氏

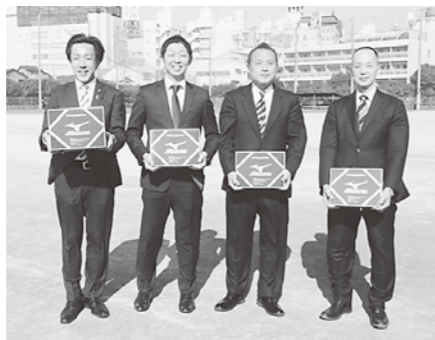
今年創業4年目を迎える新進気鋭のベンチャー企業、横濱コーポレーション株式会社。横浜市内に特化した収益用不動産（アパート・マンション）一棟売り専門に売買、仲介、賃貸管理などを行う不動産会社だ。創業以来、急速に業績を伸ばし、今後ますます成長発展が期待される。経営者は30歳の若さ。起業の経緯や将来のビジョンについて、代表取締役の菅沼勇基氏に伺った。

御社ではどんな事業を行っているのですか。

私たちは、横浜市を中心に、収益用不動産の売買・仲介・賃貸管理を行っています。富裕層および会社員を対象に、資産形成としてマンションやアパートの売買・仲介を行い、ご購入後、賃貸管理を行って、お客さまの不動産運用をサポートしています。

一般に公開されない独自ルートで仕入れた物件で、市場よりも利回り水準が高く、質の高い物件をご紹介します。

また、物件のご紹介だけでなく、併せてお客さまに最適な金融機関をご紹介します。物件購入後の賃貸管理においても、入居率95%以上を維持しています。おかげさまで、創業4年目で管理戸数1000戸を達成する見込みです。



地域貢献活動にも積極的に参加

起業するに至った経緯をお聞かせください。

もともと、実家が代々続く横浜の兼業農家でした。農地を宅地に転用し、それを活用してアパートやマンションなどの賃貸業をやっていたのはたから見ていたので、将来は不動産業界や金融機関に就職したいと思っていました。

そんな折、私が大学4年生の時に祖父が亡くなり、不動産の相続対策

横浜を代表する企業を目指します

に翻弄（ほんろう）され悩んでいる両親を間近で見、同じような悩みを持つ人にもっと良いサービスが提供できないかという思いを抱いたことが創業のきっかけです。

地元の横浜市立大学卒業後は、望み通り住友不動産に就職しましたが、誰よりも努力して3年で独立しようという気概を持って仕事に臨み、2012年に万を持って会社を立ち上げました。

会社名の「横濱」に寄せた思いとは、どのようなものか。

起業するなら、横浜を代表する企業にしたいと考えていました。「横濱」を名乗るからには、地元にも少しでも貢献したいと、市内の公立高校野球部に公式用硬球やバッティングマシーンを寄贈する活動もしています。

実は小学校から大学まで、ずっと野球に明け暮れてきました。ですから実感があるのですが、公立と私立とは道具や設備など環境面がまるで違います。

しかし、公立でも、戦術次第で私立を倒すことはできます。「弱者でも、必ず勝てる」という思いがありました。私たちが、大手企業と互角に戦うため前例のないことに進取果敢に挑戦しています。

将来のビジョンについてお聞かせください。

数字としては、現在の年商約10億円から、100億円達成を目指したい。管理戸数でいえば、1万戸です。

将来、野球球団を持ちたいという夢があります。横浜で独立リーグを立ち上げたいと考えています。

また、今後は女性の雇用創出を目指します。横浜に住んで都内に勤めていたが、出産を機に仕事を辞めたという女性が多い。ぜひ住まいに近いこ

横濱コーポレーション株式会社のプロフィール

- ▶所在地: 横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー20階
- ▶設立年: 2012年
- ▶事業内容: 収益用不動産の売買・仲介・賃貸管理
- ▶電話番号: 045-277-3830 ▶http://yokohamacorp.jp/

社長の横顔

学生時代を通して野球に打ち込み、大学時代には外野手部門でベストナインを受賞。そんなファイトが、経営にも生かされている。目標を常に高く置き、必ず成し遂げるという強い意志と情熱で、会社を急成長させてきた。モットーは、「小さな約束でも必ず守る」こと。「今日一日悔いなく生きたなら、明日死んでもいい、という考えで、物事に真剣に取り組んでいます」と朗らかに笑う。正月以外はほぼ休まないという若手社長の目下の癒やしは、沖縄旅行。「半日時間があれば行って、新しい構想を練ります。沖縄は好きですね」。そう目尻を下げた。